

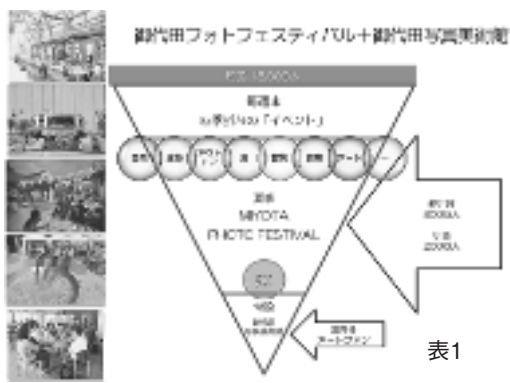
アート写真とは何か：

アートティストと町民と観光客が交流する町へ

これまで2回にわたって、旧メルシャン軽井沢美術館跡地をどのような方向性で活用していくかを説明しました。まずは「夏フェス」です。写真を軸に、食、音楽、アウトドア、自然などの要素を組み合わせた10〜20のイベントが、2カ月間に渡って、旧メルシャン軽井沢美術館跡地や町内の公園で繰り広げられます。こちらは、2018年がプレ開催で、2019年から本格的にスタートします。

そして、アマナが保有する世界的レベルの日本人アート写真家の作品群を所蔵展示する「写真美術館」が2019年〜2020年にオープン予定です。「夏フェス」は「親しみやすい写真」+「楽しいイベント」で、町民自身が楽しみ、旅行客を幅広く御代田町に招き、その中で、もっと写真の奥深さを知りたいと思っただけの人々を「写真美術館」へ誘導していく。それは美術館単体で運営するよりも、ずっとすそ野が広がるやり方ですね。

逆に、「夏フェス」側から考えると、数多い夏イベントの中でも、「写真」というキーワードで一貫し、その終点に、世界レベルの「写真美術館」が控えていると、たいへん特徴のある「競争力のある「夏フェス」になるわけです。また、「写真美術館」に収蔵される作品群には、世界から集客する可能性もあります。考え方を一つの表にまとめました。(表1)



風景、人物、報道、ファッション、スポーツなどの「上手な」作品なのでしょう。もちろんそういう側面で評価されている写真もたくさんあります。でも、皆さん、前提として写真は「真実を写している」というイメージはありますか？



*TOKYO2014
© Sohei Nishino, Diorama Map Tokyo 2014

ろが、必ずしも「真実を写している」作品だけではないのです。アートのアートたる所以ですね。そして、誰しも「写真っておもしろいなあ」と言える作品が数多くあるのです。

今回は、代表的な作品をご紹介します。連載を終えたいと思います。

まず、西野壮平さんの作品ですが、これは何か分かりますか。

「東京」です。数千枚の写真のコレクション（重ね貼り）で、縦横各2メートル近くあります。彼は、地図を片手に世界の都市を旅します。約2カ月間滞在し、人、文化、歴史、風景、建物に接し、体験し、感じ、触り、見聞きして、数千枚〜1万枚近い写真を撮影し、日本に戻ってきたから、彼の体感と価値観に基づいて、都市を再構成するのです。

「Diorama map」シリーズというこの作品群は、これまで、約20都市の作品が発表されていますが、たいへん会話が弾む作品です。昨年は、サンフランシスコMOMAで個展も開かれており、世界の「フォトフェス」に、何回も招待されています。

東京での制作作業の動画を紹介しますが、それにしても、旅先での逸話を聞いてみたいも

のです。 <https://vimeo.com/104287685>

次に、澤田知子さんの「ID 400」という作品名ですが、よく見てください。400人の、さまざまな女性が集まっているのを見るのも面白いですよ。職業、髪型、にじみ出る性格、想像される全身……でも、注意深く見ると、全部同じ人なんです。そう、被写体がすべて澤田知子さんなのです。そして、撮影は自動証明写真機ですね。

「アートフォトは、技術や構図がうまくいって写真なんだろ」という認識からはだいぶ違いますね。澤田さんは、他に「School Days」と「OMIAIO」シリーズと言った作品も発表していますが、さて、この写真を撮影しているのは誰なのでしょう。澤田さんではないですよ。澤田さんは写真家？ そして彼女は、この作品を持って、

世界に何をアピールしているのでしょうか。聞いてみたいですね。

最後に、ネルホルさんの作品ですが、これも不思議な写真ですね。「真実を写す」とは異なりますね。これは、3分間



*UNAMED
Misunderstanding Focus No.001
2012 © Nerhol Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery

に200カット連続撮影したデータを出力し、その200枚を層のように重ね、カッターで彫刻していくのです。人間は3分間、動かないわけではありませんから、少しずつズレて、こんなゆがんだポートレートになるのです。一つの個性ですね。この制作過程をこの動画でお楽しみください。

<https://www.youtube.com/watch?v=NF5AMRITY6A>

ところで、ネルホルさんは外国人みたいな名前ですが、飯田竜太さんと田中義久さんという二人組なんです。アイデアを「練る」人と、それを「掘る」人で「ネルホル」そして、飯田さんは彫刻家で、田中さんはデザイナー。そう、二人とも写真家ではないのです。面白いでしょう。これまたどうしてこんなことを思いついたのか聞いてみたいですね。

さて、これが「アート写真」の一端です。こうした写真作品が、

世界のアートフェスで紹介され、世界のアート写真関連の賞を獲得し、世界のアート写真ファンを魅了しているのです。それらの作品が御代田町にやってきました。

「夏フェス」と「写真美術館」が本格的になれば、ご紹介した日本人の若手写真家や、世界の御所写真家自身が、御代田町に来訪するでしょう。そんな方々と交流したら、多くの人は写真を好きになるでしょう。そして世界で人気のある写真を、町民が旅行者に説明できるようにになると、きっと旅行者も御代田町を好きになってくれるでしょう。

世界の写真ファンには人気の町「MIYOTA」に向けて、まずは、私たちが写真を楽しみましょう。昨年12月10日に栄町公民館で開催された写真教室の2回目も、今年は7月22日(土)にエコールみよたで開催予定です。今後も継続していく予定です。また、今年の龍神まつりと同時期に、小さな写真イベントも一つか二つ実施予定です。

もしかしたら、皆さんも「アート写真家」として世界に飛び立てるかもしれませんね。



*ID400
ID400, 1998 © Tomoko Sawada, courtesy MEM